Sankei
11/21/2011

同性婚 大統領選の争点にも

@Now

公表の米総領事「正直に生きたい」

来秋の米大統領選でも同性婚が、争点のひとつになりそうだ。結婚を男女に限った連邦法についてオバマ大統領は憲法違反との判断を2月に示し、連邦レベルでの同性婚合法化に一歩踏み出した。同性婚反対派が多い共和党支持層が民主党政権の動きに反発を強めるのは必至だが、そんな中で同性婚を公表しているパトリック・リネハン氏(58)が大阪・神戸米総領事として9月に着任した。「私たちの存在がメッセージ」と話すリネハン氏。論議のない日本側に小さな驚きと変化を促している。

(坂本英彰)

同性婚を公表して大阪・神戸総領事として活動するパトリック・リネハン氏（左）とパートナーのエマーソン・カネグスケ氏＝16日、大阪市北区（門井聡撮影）

これまでの総領事が夫人を同伴していた公式の場面でリネハン氏は、「夫」である日系ブラジル人のエマーソン・カネグスケ氏(39)を伴う。広島市の平和記念公園を訪れた際には、2人並んで原爆慰霊碑に花をささげた。米国では1990年代以降、黒人や女性などに続いて、同性愛者の平等権が政治問題に急浮上した。男女と同じ婚姻を認めるかどうかが争点となり、選挙の行方にも影響を及ぼしている。

■行事にも「夫」同伴

3度目の着任となる日本について、リネハン氏は「とても受け入れられやすい国だ」と感じているという。「マイハズバンド（私の夫）」とカネグスケ氏を紹介すると相手の驚きや戸惑いが伝わってくることがあるが、それは一瞬で、「日本人はあまり表情には出さずすぐ理解してくれる。否定的な反応は全くない」と語る。

ブラジル空軍の航空管制官を辞めて来日していたカネグスケ氏とは2002年、東京の大使館で報道官だったとき、訪れたスポーツバーで出会った。大使館官舎で一緒に暮らしはじめ、次の勤務地のブラジルに同伴、さらに次に赴任したカナダで07年に結婚した。大阪には在ソウル大使館を経て、今年9月に着任した。

連邦政府に入った1984年当時は、同性愛を公表するだけで職を奪われたという。クリントン政権時代に改善が進み、同性愛を公表して任命される大使も現れはじめた。国務省にはいまや、数百人を擁する同性愛者の組織もある。

■待遇改善の兆しも

同性婚配偶者への改善も着実に進んでいる。カナダから韓国への異動時にカネグスケ氏の航空運賃は自費だったが、今回、ソウルから大阪に移る際には手当が支給された。

一方、米総領事という公職にある人物の同性婚は、日本側にも慣例にない対応を促している。自治体など関係機関から届く招待状の宛名は当初、「リネハン総領事・ミセスリネハン」だったが、事情が伝わると「リネハン総領事・ミスターカネグスケ」に改まった。

総領事夫人が代々引き受けてきた日米親善女性団体の名誉職に、カネグスケ氏は男性として初めて就いた。カネグスケ氏は「最初は断ろうと思ったが、私たちも現代化する必要があると説得された」。

もっとも、リネハン総領事は「正直に生きたいだけ」と説明し、声高な主張はしない。「米国も長い歴史を経てここに至った。私たちが普通にいるだけでメッセージは伝わると思う」と静かに話した。

6州で合法化／「賛成」過半数

同性婚の是非は米国を二分する論争だが、大きな流れは容認の方向にある。婚姻関係を問わない同性カップル世帯は昨年の国勢調査で約65万と10年で約1・8倍に増加。世論調査による同性婚への賛成は今年初めて半数を超えた。

米世論調査会社ギャラップによると、同性婚について賛成は53%で、反対は45%。1996年には27%と68%で反対が圧倒的だったが、賛否の差は徐々に小さくなり、今年初めて逆転した。

同性婚を初めて合法化したのは2004年のマサチューセッツ州で、今年新たに加わったニューヨーク州を含め計6州と首都ワシントンで合法化されている。一方、カリフォルニア州は08年に州最高裁が同性婚を合法としたが、同年の住民投票で結婚を男女間に限る州憲法改正が成立、これがさらに連邦裁判所で争われるという曲折を経ている。

オバマ大統領は今年2月、結婚は男女間に限るとした1996年成立の連邦法は憲法違反だとの判断を示した。連邦レベルの合法化に向けた動きだ。

一方、世界では、オランダやノルウェー、カナダなどで同性婚の合法化。他方、アフリカやアラブ諸国には、同性愛そのものに厳しい罰則を設けている国も多い。